

園での「SDGs」



今年のGWは、緊急事態宣言が発出されていることもあり、主に家でテレビを見て過ごしていましたが、某TV局では「地球を笑顔にするWEEK」としてSDGsの特番やCMを放送していました。最近では、SDGsへの取り組みをHPなどで打ち出している園も増えています。

SDGsは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略で、2015年に国連で採択されました。2030年までの間に世界が達成すべきゴールを表したものです。

SDGsについて園の先生方が知っておくべき点は、以下の三つです。

① SDGsは特別なことではない

「私たちの園では、SDGsに取り組んでいます」とHPなどでアピールする前に、何か特別なことをしなければ、と考える必要はありません。SDGsを意識して積極的な取り組みをしている園もありますが、そうでなくても日常の園の活動を見直すと、SDGsにかなった取り組みを多くしていることに気づきます。

例えば、職員への研修を通じて、保育や教育の質の向上を図る取り組みは、SDGsの「4. 質の高い教育をみんなに」につながります。リサイクルボックスを設置し、ペットボトルや牛乳パック等を回収するのは「13. 気候変動に具体的な対策を」や「14. 海の豊かさを守ろう」「15. 陸の豊かさを守ろう」など、多くのゴールにつながります。それ以外にも色々と思いつくことがあるでしょう。大切なのは、その普段の取り組みをSDGsに掲げられている目標を理解・意識して取り組むことです。

② SDGsへの取り組みをアピールしよう

園でせっかくSDGsにつながる取り組みをしているのに、アピールしないのは勿体ないということです。年々、保育者の間でも、社会・保護者の間でも、SDGsへの意識が高まっています。自分の仕事が、社会貢献や地球環境保全に役立つと考えて、やりがいを感じる人も多いでしょう。SDGsへの取り組みを積極的にアピールすることは、園児募集や保育士等職員募集においてプラスとなるだけでなく、職員のモチベーションアップにもつながります。更に「こんなこともできるのではないかと新たなSDGsへの取り組みを生み出し、「3. すべての人に健康と福祉を」など、多くのゴールに繋がるきっかけになります。

③ SDGsについて子どもたちに伝えよう

最後に、SDGsについて子どもたちに伝えるということ。これが一番大切なことです。私たち大人にとってSDGsは新たな概念という認識ですが、これから社会に出ていく子どもたちにとっては、当たり前のことになる時代がやってきます。年齢に応じた工夫は必要ですが、例えば給食のときに、世の中では満足に食べられない子どもがたくさんいることを伝える、歯磨きのときに水を流しっぱなしにしない、電気をつけっぱなしにしないことで資源やエネルギーを無駄にしないことを伝える、SDGsのテーマに沿った絵本を読み聞かせて何が大切かを考えてもらうなど、保育・教育のあらゆる場面を通じて、子どもたちに伝えていくことが大切です。

地球環境や貧困・差別のない世の中など、SDGsが目指すゴールについて、特別なことではないと理解し、自らも取り組むとアピールして、次の世代に伝えていく。子どもたちの明るい未来のためにも必要なことではないでしょうか。

チャイルドグループ（株）幼保経営サービス コンサルティング部
マネージャー 保育士 二反田征彦

HP <https://www.ans.co.jp/youho/consult.html>

お問合せ <https://www.ans.co.jp/youho/postmail/index.html>